

インターネットにおける公共圏形成の可能性に関する研究

研究代表者 杉 山 あかし 九州大学 大学院比較社会文化研究院 助教授

共同研究者 藤 田 高 弘 上智大学 文学部 非常勤講師

電子ネットワーク上に新たな“公共圏”が形成される可能性について、筆者両名は研究を行なってきた⁽¹⁾。そして、NIFTY-Serve のいくつかのフォーラムにおいて、公共圏形成への方向性を見いだしてきた。しかし、当時から「今後の研究課題」としてきたことの一つが大衆化の問題であった。わが国で最も早く一般コンシューマー向け電子ネットワークサービスを開始したネットワーク企業の一つである NIFTY-Serve の、比較的早期の電子ネットワーク利用者たちが生み出した電子ネットワーク利用形態において公共圏の萌芽のようなものが認められたとして、その後の電子ネットワークの全社会的普及／大衆化において、この利用形態は持続・発展するのだろうか。それとも雲散霧消していくのであろうか。あるいはこういった次元では語り得ない、異なった言説状況を生み出していくのであろうか。この点について我々は強い関心を抱いてきた。本研究は、インターネット上の巨大掲示板「2チャンネル」の分析を通して、この問題について考えてみるものである。

1 分析対象

まず取り上げるサイトをわが国最大の掲示板サイトである「2ちゃんねる」とした。このサイトの圧倒的な規模についてはしばしば言及されるところである。インターネットの一般への普及と共に巨大化したサイトであるので、電子ネットワークの現在を考える上で好適な対象といえよう。本研究では、この「2ちゃんねる」の「ニュース速報」掲示板内のイスラム情勢関係の掲示板3つを分析対象とすることにした。9.11テロ以後のアメリカを中心とする多国籍軍のアフガニスタンおよびイラクでの戦争は、現代国際社会の直面する重大な課題となっており、この問題に関して、活発な書込みが行なわれた掲示板は、公共圏という課題をもってインターネットを分析する際の対象として適切であろう。なお、この対象を選ぶには、もう一つの理由がある。かつて筆者両名は、1991年湾岸戦争当時の NIFTY-Serve 内の電子会議室を分析している。この事例と対照してみるのに適切な話題を扱っている掲示板であると考えられるからである。

取り上げる「ニュース速報」掲示板内の3つの掲示板は以下のようなものである。「ニュース速報」掲示板では、2001年9月11日の国際貿易センターへ旅客機が突っ込むというテロの発生直後から「news3 臨時@ニュース速報」掲示板が立ち上げられ、後述のように大量の書込みが行なわれた。その後、この問題に関わる書込みは、臨時ニュースではなく、イスラム情勢を扱う「イスラム情勢（タリ板）@ニュース速報」へと移動する。この掲示板では、アフガニスタンおよびタリバーン情勢についての書き込みが行なわれるが、政治・軍事状況が、イラクを中心とするものになるのに伴って2003年3月、「イラク情勢+」掲示板が開設され、書き込みの中心もそちらに移動した。本研究で情報収集・分析を行なったのは、この3つの掲示板「news3 臨時」、「イスラム情勢（タリ板）」、そして「イラク情勢+」である。「2ちゃんねる」のそのほかの掲示板においても、アフガニスタン・イラク情勢は議論の対象となっているが、掲示板として明確に課題が設定された場はこれら3つの掲示板である。

2 データの所在とデータ収集上の問題点

これらの掲示板への書き込み内容の入手は、「2ちゃんねる」に設置された「過去ログ倉庫」から行なった。しかし、ここにはいくつかの問題点が存在している。まず、「過去ログ倉庫」が完全なものではないと思われることである。もともとボランティアな掲示板として始まった「2ちゃんねる」では、過去ログの作成も、掲示板提供者とその協力者の自発的な活動であって、商業サービスで保証されるような完全性を期した性格のものではない。そして、より大きな問題は、「2ちゃんねる」のサーバーがクラッシュを経験していることである。それも、9.11テロ後、アクセスが最も集中すると考えられる時期にである。このため、この時期の過去ログに、かな

りの混乱を見いだすことができる。

具体的には、「news3 臨時@ニュース速報」のログは「piza2 サーバ」に収録されているが、2001年9月13日の書き込みまでしか見ることができない。もっとも、9月11日からの3日間で書き込み量はスレッドにして528スレッド、書き込み数にして20,310件と膨大なものであるのだが。

「イスラム情勢（タリ板）」については、より多くのスレッド／書き込みが残されているのだが、それだけに状況はかなり複雑なことになっている。過去ログ倉庫では「#news51020」といった名称で、いくつかのスレッドがまとめられて登録されているのだが、これがいくつかのサーバーに分散して残されている。「news サーバ」には#news51002～#news51026（ただし #news51024 は存在していない）、「news3 サーバ」には #news51025～#news51065、「cornサーバ」には #news51025～#news51039、「news10 サーバ」には #news51053～#news51081 といった状況である。しかも、これは単に分散して置かれているだけではなく、収録内容にも異同がある。以下、どのようにデータ収集を行なったか、列挙しておく。

#news51002～#news51023 「news サーバ」のみに収録されているのでそれを採用。

#news51024 所在を確認できず。

#news51025 「news3 サーバ」には67スレッドが収録されているが、このうち31スレッドは2回ずつ重複収録（しかも収録書き込み数に違いが存在）。他方、「corn サーバ」には34スレッドが収録されており、書き込み数は「news3 サーバ」の重複ケースの書き込みの多い方と一致。「news3 サーバ」から重複を省き36スレッドを採用。

#news51026 「news3 サーバ」には「corn サーバ」の2倍の34スレッドが収録されているが、すべて2回重複しているので、収録スレッド数は実質同等。書き込み数は「news3 サーバ」の重複スレッドの多い方と「corn サーバ」で一致。「corn サーバ」の17スレッドを採用。

#news51027 同前の状況。「corn サーバ」の15スレッドを採用。

#news51028 ほぼ同前の状況だが、1スレッドだけ「news3 サーバ」でも重複していないものがあり、「news3 サーバ」45スレッド、「corn サーバ」23スレッド。「corn サーバ」の23スレッドを採用。

#news51029 #news51026と同様の状況。「corn サーバ」の28スレッドを採用。

#news51030 「news3サーバ」44スレッド、「cornサーバ」23スレッド収録。「cornサーバ」の23スレッドは「news3サーバ」に含まれるので、「news3サーバ」の44スレッドを採用。

#news51031 「news3 サーバ」51スレッド、「corn サーバ」88スレッド収録。「news3 サーバ」の51スレッドは「corn サーバ」の88スレッドに含まれるが、スレッドへの書き込み数は「news3 サーバ」の方が多いので、「news3 サーバ」の51スレッドと、「news3 サーバ」に含まれない、37スレッドについて「corn サーバ」のスレッドを採用。

#news51032～#news51038 同前の状況。収録書き込み数の多い「news3 サーバ」に含まれるスレッドに、「news3 サーバ」に含まれない、「corn サーバ」のスレッドを付加して採用。

#news51039 「news3 サーバ」48スレッド、「corn サーバ」4スレッド収録。収録書き込み数も「news3 サーバ」が多いので、「news3 サーバ」の48スレッドを採用。

#news51039～#news51052 「news3 サーバ」のみに収録されているので、それを採用。

#news51053～#news51065 「news3 サーバ」と「news10 サーバ」に収録。スレッド数、含まれる書き込みとも「news3 サーバ」が多いので「news3 サーバ」のスレッドを採用。

#news51066～#news51081 「news10 サーバ」のみに収録されているので、それを採用。

なお、「news3 サーバ」では、html 化される前の「dat 形式」で収録されているものも多い。

「イラク情勢+」掲示板については、「news10サーバ」のみに収録されている（#news5plus1048～#news5plus1082）ので、それを採用した。

このようにして収集したデータであるので、必ずしも厳密な議論が可能なわけではないが、一定の傾向を見て取ることはできると考えられる。ちなみに、総収集スレッド数と書き込み数は、「news3 臨時@ニュース速報」528スレッド、書き込み数20310件。「イスラム情勢（タリ板）」4907スレッド、書き込み数396003件。「イラク情勢+」2224スレッド、書き込み数229239件となった。

なお、これらと比較する対照データ収集のため、朝日新聞社の記事データベース「聞蔵（きくぞう）」を利用した。以下で言及される「朝日新聞記事」は、「アフガン」「アフガニスタン」「イラク」「イスラム」のいずれか

の語を含む記事で、2001年9月11日から2004年3月31日という期間設定において、聞蔵で検索したものである。なお、あらゆる関連発言が含まれる電子掲示板と比較のためなので、データ検索にあたっては聞蔵の検索オプションとして、東京・大阪・名古屋・西部（福岡）・北海道の各本社発行版すべて、朝・夕刊、本紙・地方版すべてを対象とした。

3 書き込みの全体的傾向

書き込み一件あたりの平均本文字数は、「news3 臨時@ニュース速報」55.3字、「イスラム情勢（タリ板）」103.0字、「イラク情勢+」71.5字であった。この字数は朝日新聞の記事平均808.4字と比較して著しく少ない数字とすることができる。なお、2ちゃんねる掲示板の字数のカウントにあたっては、html 文書タグ（ハイパーリンク先を含む）および改行コードを除き、アスキー・アートについてはそのままカウントしている。また、朝日新聞記事の字数については聞蔵の検索結果表示画面に表示される「字数」から計算している。

この平均文章長の著しい短さはどのように考えるべきだろうか。掲示板においては、単に書き込み番号の早い番号を「ゲット」したことを示す例えば「2」という数字一字だけの書き込みや、同じくキリ番「500」だけを書き込んだもの、あるいは、短い決まり文句のみの書き込み（たとえば「おまえモナー」や「逝ってよし」など）が存在し、こういったものが全体の平均字数を引き下げているということが考えられるかもしれない。そこで、朝日新聞記事の平均字数を念頭に、800字以上の書き込みについてカウントしてみた。しかし、800字以上の書き込みは「news3 臨時@ニュース速報」71件、「イスラム情勢（タリ板）」4331件、「イラク情勢+」2000件、と、それぞれの掲示板への書き込みの、0.3%、1.1%、0.7%を占めるに過ぎず、しかも、その過半数以上がアスキー・アートで占められている状況であった。1991年湾岸戦争の際、朝日新聞記事平均字数900字程度に対してNIFTY-Serve 現代思想フォーラム「現代世界室」における書き込みが平均1900字程度であったのと較べると、やはり極端に短いといえることができる。

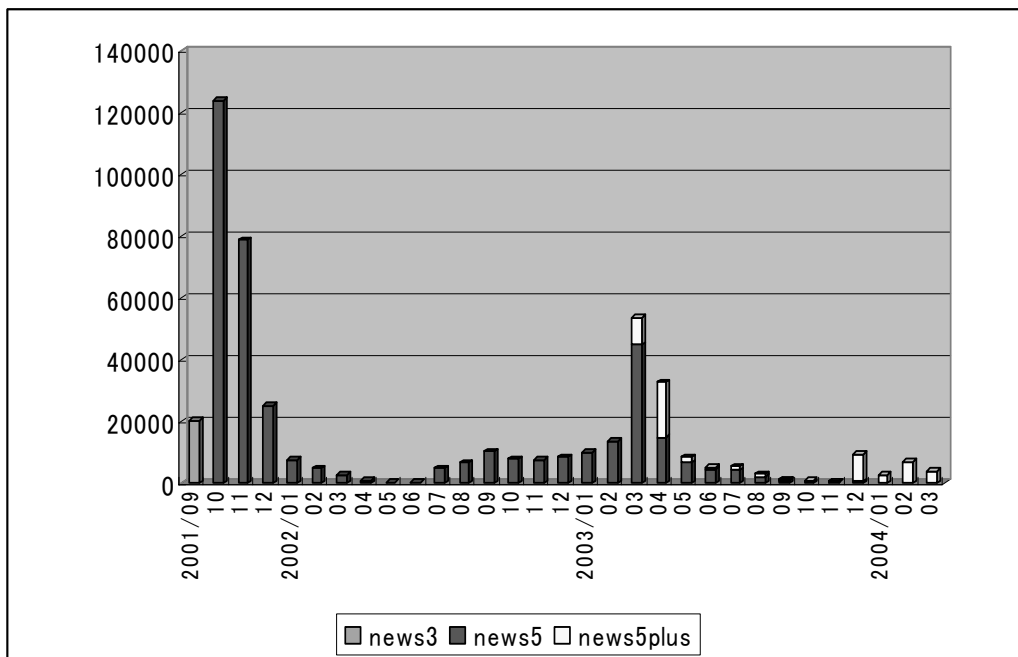


図1 2ちゃんねる3掲示板における書き込み数の推移

書き込み数の経時的変化については、図1のようになる。

2001年9月～10月初旬についてはデータが散逸しており、上図よりもかなり実際の書き込み件数は多いと考えられる。

これを朝日新聞記事事件数の推移（図2）と比較してみよう。話題となる出来事の性質の違いによってか、ピークの高さは異なるが、全体に増減の傾向はよく似通っているといえることができるだろう。

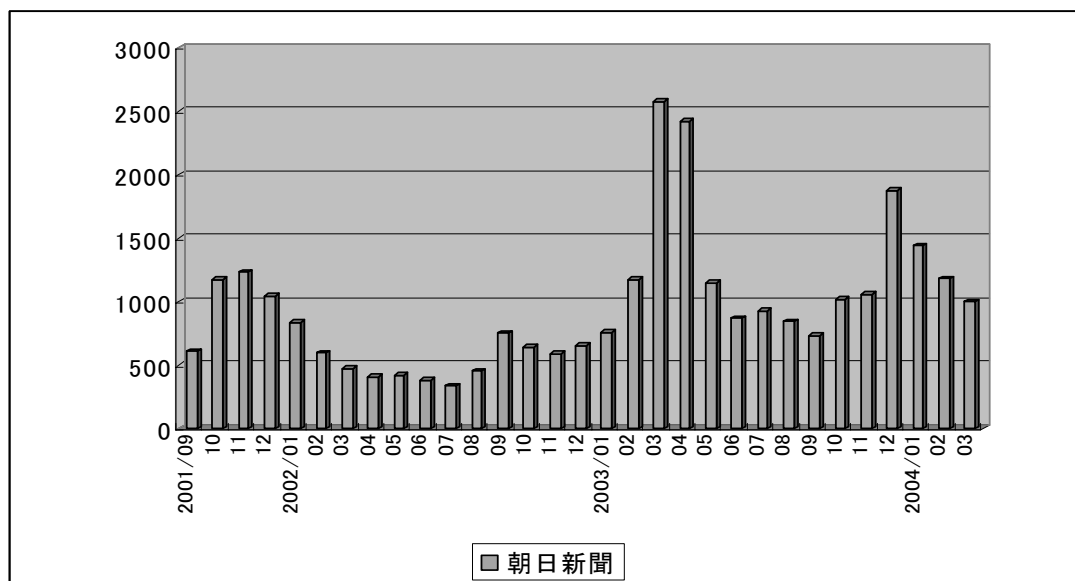


図2 朝日新聞における9.11テロ以後の関連記事の推移

ちなみに1991年湾岸戦争における前記会議室における書き込み量と朝日新聞の記事数の変化を図3に掲げるが、そこではメディアの報道傾向とははっきり異なった形でネットワーク上の発言に増減が生じており、自律的に議論が展開された跡が見て取れる。しかし、2ちゃんねるでは反応の大きさに違いはあるものの、概ねメディアの議論状況に対応して書き込みが進められていると言って良いのではなかろうか。そもそも、書き込み一件あたり平均字数55.3字、103.0字、71.5字という字数は、何かに対する寸評は可能であるにしても、自律的に議論が展開できる文字数ではないと考えられる。アクセスしているメンバーにとって既知の事項（＝実質的には、マスコミで報道されたこと）に対する反応の大きさが書き込み数として現れているだけ、と考えてよいかもしれない。

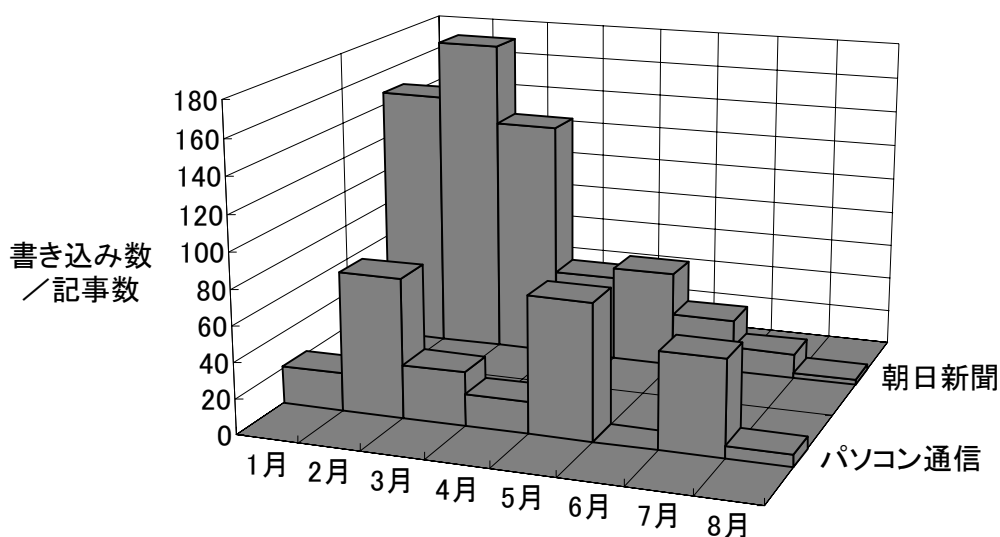


図3 湾岸という言葉を含む書き込み数/記事数の変化

4 「公共圏」

「公共圏」という言葉は、時に極めてルーズな使い方がなされて来た。オープンな場で、何でも語ることができれば、とりあえず「公共圏」の資格があるかのような言説がある。確かに、語源的にはそのような側面もあるのだが、しかし、「公共圏」という概念を社会学的議論の場の前面へと引き出してきたハーバーマスにおいて、「公共圏」にはある一つの強い含意が込められている⁽²⁾。

コミュニケーション的合理性の発現の場として、問題や矛盾を抱えた社会に対する批判の場として「公共圏」は期待されているのである。了解志向のコミュニケーション行為を行なうとき、人は自らの価値観について考え直さざるを得ない状況に立ち至る。コミュニケーションという行為は、他者に自らの意見を押し付けるだけの一方的な行為ではなく、相互了解を志向する行為だからである。ある時、ある者が当然のこととして発言したことが、他の者には当然とは思えない。この時、このすれ違いが、その理由を対話を通して考えていくことに繋がり、それがさらに前提となっていた既存価値観の妥当性を検討せざるを得なくなっていくならば、それは（既存価値観を前提として営まれている）社会に対する批判的のモーメントとして社会に作用することになる。公共圏は、このようにして批判的理性を生じさせる場と考えられていた。

実際には、このような場が成立するために、いくつかの条件が必要となる。議論への参加者がまず個別利害を離れること、そして、議論を理解し論理的に発展させ、蓄積していくことができること、である。

議論の参加者が個別利害を離れるという点において、「ネットワークの匿名性」と呼ばれるものがネットワーク上での公共圏成立に有利に働く可能性が高い。現実には、システム管理者からは IP アドレスによる追跡が可能であり、また、これを放棄している 2ちゃんねるにおいてさえも、「ID」として発信パソコンは特定され、表示されていることから、ネットワーク上に匿名性はほとんど存在していないのだが、議論参加者からとりあえず相手の属性が見えないことは、議論参加者の属性志向のコミュニケーションではなく、議論内在的な問題に志向したコミュニケーションの成立を促進すると考えられる。

ただしそれも、課題についての十分な議論がなされる場合についてのことであって、既に見てきたような字数の書き込みでは、論理的議論が展開されるとは考え難い。

議論の蓄積性については、引用ヘッダ、書き込み参照（「>34」といったもの）によるツリー形成、および、書き込みの中で使われる「前スレ」（以前のスレッド）という言葉が、議論の蓄積性と関係するマーカーとして考えられる。書き込み参照（「>」という文字列）および、「前スレ」という言葉を含む書き込みはそれぞれ、「news3 臨時@ニュース速報」3487件（この掲示板全書き込みの17.2%）／11件（同0.05%）、「イスラム情勢（タリ板）」122234件（同30.9%）／647件（同0.16%）、「イラク情勢+」88882件（同31.3%）／476件（同0.17%）であった。スレッド内では、書き込み間に緊密な参照の連鎖が存在することを伺わせる数字であると考えられるが、もともと数十文字からせいぜい100字程度の書き込みでは、参照関係によって寸評的に言葉を繋いでいくしか書き込みようがないとも言え、これをもって「蓄積性」と呼べるかは難しいところである。スレッド間の参照関係については、「前スレ」という言葉によって測定する限り、かなり希薄であるということが言えよう。

このような状態から 2ちゃんねるを考えると、そこに「公共圏」が成立する可能性はほとんどないと言わざるを得ないだろう。それどころか、説明抜き寸評の連鎖は、ある決まりきった価値観の繰り返しであるほかないと考える方がより妥当であり、ハーバーマスが構想した対話的で批判的理性を備えた「公共圏」とは、全く反対の存在であるように考えられる。

実際、「2ちゃんねるの影響」といったキーワードを用い、検索サイトでインターネットを検索してみれば、2ちゃんねるを評する例えば次のような書き込みを見つけることができる。

2ちゃんねるの影響でしょうか、私の意見もかなり一方的になってきてしまいました。

(<http://members.at.infoseek.co.jp/saihikarunogo/yahoohikiluna0001.html> 2004/06/29)

5 もう一つの批判性？

さてしかし、それでは 2ちゃんねるとは、何なのであろうか。「イスラム情勢（タリ板）」のみでも396003件、総文字数40782018字という数字は、あまりにも巨大な数字である。議論が展開しないと言うならば、そこで「語られて」いることは何なのであろうか。

2ちゃんねる一般について言われていることに、差別的な言辞の頻出、および、「祭り」に象徴されるような、ある種の仲間意識の確認行為への嗜好性、がある。1点目はもちろんのことながら、第2の点についても、肯定的な議論をする者は多くない。「仲間意識の確認」とは他者の排除であり、この意味で第2点目は第1点目とそう異なるものではない。前節の議論を引き継げば、所与の価値観の共有を前提として、言葉の投げかけや行為がなされるのであって、対話的に議論が展開する状況とは程遠い場が、2ちゃんねるである。ただし否定的に論及されながらも、より具体的な、例えばコンピュータ機器の利用に関する掲示板などでは、「前スレ見とけ、ゴル

ラァ」といった冷たいレスが多くある一方で、実際に「前スレ」に有益な情報が蓄積されていることもあれば、そうは言いながらも援助的な書き込みをする者が現れてくるケースも多く、こういった意味では、十分に「インフォーマティブ」で、有益な場となっていることも確かではあるのだが。

いずれにせよ、様々に批判されながらも、十分な吸引力を持って2ちゃんねるが存在しているという事実は、批判的視点とは別に、この2ちゃんねるという存在を考えてみることを要求している。

ここで発想を転換して試みる必要があるかもしれない。P.ブルデューの議論は、「知識人の批判性」に関する、ある強烈的な批判を提示している⁽³⁾。すなわち、文化資本を自らの階級的基盤とする「知識人」は、「普遍的な価値の追求」という“批判ゲーム”において有利な立場に立つことによって、自らの特権的地位を維持する社会的存在である。“批判性”とは、個別利害を超えて普遍的な価値について語るとい形式のもとに階級的個別利害が保証される、知識人階級の戦略的資源なのである。

このように考えてみると、2ちゃんねるにおいて頻出する反左翼言説——「サヨ」といった言葉で、無前提に左翼は嘲笑の対象となる——の社会的含意も明確になるだろう。なんらかの社会科学的知識を背景に現実の変革を目指す左翼的言説が、知識人の文化資本戦略と一致することをブルデューは議論した。2ちゃんねるにおける反左翼言説は、文化資本体制に対する拒否の態度の表明であるのかもしれない。そして論理性を追求しない書き込みの形式自体が、すぐれて文化資本支配的な言説空間に対する否定活動なのかもしれない。

2ちゃんねるにおいて、左翼と共に、マス・メディアが主要な攻撃対象となるのも、同様の理由によるだろう。現在の文化上の威信体系こそが否定されていると考えるべきだろう。

NIFTY-Serve 的議論空間から2ちゃんねる的表出空間への変化は、電子ネットワークがエリート・メディアから大衆メディアへと性格を変えていく中で、当然起こるべくして起こった変化と行うことができる。

もし、2ちゃんねる的言説が言論空間を席捲していき、普遍的な価値観の追求が常に嘲笑の対象として葬り去られていくのであれば、それはまた大きな問題であろうが、現実にはネットワーク上でさえ、そのようなことは実際に起こっていない。検索サイトで検索をかけてみれば、2ちゃんねるに対する反感もまた、根強いものがあることがわかる。

民間シンクタンクの研究員による現代ネットワーク状況分析の中に、インターネットをはじめとするネットワークのコミュニケーションが、急速に普及した現代社会では、「サイバー」なコミュニケーションを他の社会的コミュニケーションと全く異質なものとして捉えるのは、有効性を失いつつあるのではないかという指摘があった。現代社会におけるコミュニケーション空間が、対人的コミュニケーションからネットワーク・コミュニケーション、そしてマス・コミュニケーションのような制度化された領域まで、連続的に包含したものとして成立するようになってきているのであれば、その中には当然、2ちゃんねるのような言説空間も存在してしかるべきと考えることができる。

多様化した現代の言論空間の一部として2ちゃんねるが存在することは、それ自身ある種の社会批判となっていることをこそ、現在は理解しておくべきであろう。

参考文献

- (1) 杉山あかし・藤田高弘1995「電子空間の社会的可能性」(『比較社会文化』1巻1-11頁 九州大学大学院比較社会文化研究科)
杉山あかし・藤田高弘1993「公共圏の新展開——湾岸戦争とパソコン通信」(『社会科学論集』33集67-110頁 九州大学教養部社会科学研究室)
- (2) ユルゲン・ハーバーマス(細谷貞雄・山田正行訳)1962=1973『公共性の構造転換』未来社
ユルゲン・ハーバーマス(河上倫逸他訳)1981=1985, 1986, 1987『コミュニケーション的行為の理論』(上)(中)(下) 未来社
- (3) P.ブルデュー(石井洋二郎訳)1979=1989, 1990『ディスタンクシオン』(Ⅰ)(Ⅱ) 藤原書店
P.ブルデュー(石崎晴己・東松秀雄訳)1984=1997『ホモ・アカデミクス』藤原書店